

略解*

平成 11 年 12 月 11 日

問題 1 .

- A_1, A_2 が共に点列コンパクト
- $\Leftrightarrow A_1, A_2$ が共に有界閉集合
- $\Leftrightarrow A_1 \times A_2$ が有界閉集合
- $\Leftrightarrow A_1 \times A_2$ が点列コンパクト。

問題 2 . まず、 $\mathbf{R}^n - \overline{A} \subset \text{Int}(\mathbf{R}^n - A)$ を示す。

$\overline{A} \supset A$ なので $\mathbf{R}^n - \overline{A} \subset \mathbf{R}^n - A$ 。また、 \overline{A} は閉集合なので $\mathbf{R}^n - \overline{A}$ は開集合。従って、 $\forall x \in \mathbf{R}^n - \overline{A}$ に対し

$$\exists \varepsilon > 0; B_\varepsilon(x) \subset \mathbf{R}^n - \overline{A} \subset \mathbf{R}^n - A。$$

よって $x \in \text{Int}(\mathbf{R}^n - A)$ 。

次に、 $\mathbf{R}^n - \overline{A} \supset \text{Int}(\mathbf{R}^n - A)$ を示す。

$\text{Int}(\mathbf{R}^n - A)$ の定義より、 $\forall x \in \text{Int}(\mathbf{R}^n - A)$ に対し

$$\exists \varepsilon > 0; B_\varepsilon(x) \subset \text{Int}(\mathbf{R}^n - A) \subset \mathbf{R}^n - A。$$

この x に対し、 $x \in \overline{A}$ と仮定すると $B_\varepsilon(x) \cap A \neq \phi$ となるので

$$B_\varepsilon(x) \subset \mathbf{R}^n - A。$$

*あくまで解答例にすぎません。

よって $x \in \overline{A}$ 、すなわち、 $x \in \mathbf{R}^n - \overline{A}$ 。

問題 3 (1)

$$\begin{aligned}\overline{A} &= \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 | 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1\} \\ \text{Int}(A) &= \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 | 0 < x < 1, 0 < y < 1\} \\ b(A) &= (\cup_{x \in \{0, 1\}} \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 | 0 \leq y \leq 1\}) \\ &\quad \cup (\cup_{y \in \{0, 1\}} \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 | 0 \leq x \leq 1\})\end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned}\overline{A} &= A \cup \{(x, 0) \in \mathbf{R}^2 | 0 \leq x \leq 1\} \\ \text{Int}(A) &= \phi \\ b(A) &= \overline{A}\end{aligned}$$

(3)

$$\begin{aligned}\overline{A} &= \mathbf{R}^2 \\ \text{Int}(A) &= \phi \\ b(A) &= \overline{A}\end{aligned}$$

問題 4 . (1) $\exists f : A \rightarrow B$ 全単射。

(2) $\exists f : A \rightarrow \mathbf{N}$ 全単射。

(3) $\mathbf{R} = \mathbf{Q} \cup (\mathbf{R} - \mathbf{Q})$ であり、「 \mathbf{Q} は可算集合」、「2つの可算集合の和集合は可算集合」なので、仮に $\mathbf{R} - \mathbf{Q}$ が可算集合だとすると、 \mathbf{R} も可算集合となる。しかし、 \mathbf{R} は可算集合ではないので矛盾。よって、 $\mathbf{R} - \mathbf{Q}$ は可算集合でない。

問題 5 . まず、 g は単射を示す。

仮定より $g \circ f : A \rightarrow C$ は全射なので $\forall z \in C$ に対し、 $\exists x \in A; z = g \circ f(x) = g(f(x))$ 。 $y = f(x)$ とおけば

$$\forall z \in C \text{ に対し、} \exists y = f(x); z = g(y)$$

となり g は全射。

次に、 f は単射を示す。

$f(x_1) = f(x_2)$ とおくと

$$g \circ f(x_1) = g(f(x_1)) = g(f(x_2)) = g \circ f(x_2)$$

となり、仮定より $g \circ f : A \rightarrow C$ は単射なので $x_1 = x_2$ 。よって f は単射。

問題 6 . 開集合となる。

$$A + B = \bigcup_{a \in A} (\{a\} + B)$$

であり、 $(\{a\} + B$ は B を平行移動したものだから) B が開集合ならば $\{a\} + B$ も開集合。また、開集合の和集合は開集合。

問題 7. 無理数 α を任意にとり、2つの開集合 $(-\infty, \alpha)$, (α, ∞) を考える。

$$(-\infty, \alpha) \cup (\alpha, \infty) \supset \mathbb{Q}$$

$$(-\infty, \alpha) \cap (\alpha, \infty) = \emptyset$$

なので $(-\infty, \alpha)$, (α, ∞) は \mathbb{Q} を分離する開集合となる。よって \mathbb{Q} は連結でない。

問題 8. 教科書 29 ページ参照。

問題 9. (O1) $X \in \mathcal{O}_1$, $X \in \mathcal{O}_2$ なので $X \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2$ 。 $\phi \in \mathcal{O}_1$, $\phi \in \mathcal{O}_2$ なので $\phi \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2$ 。

(O2) $\mathcal{O}_\lambda \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2$ ($\lambda \in \Lambda$) とする。 \mathcal{O}_1 は (O3) を満たしているので

$$\bigcup_{\lambda \in \Lambda} \mathcal{O}_\lambda \in \mathcal{O}_1。$$

\mathcal{O}_2 は (O3) を満たしているので

$$\bigcup_{\lambda \in \Lambda} \mathcal{O}_\lambda \in \mathcal{O}_2。$$

従って、

$$\bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_{\lambda} \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2 .$$

(O3) $O_1, \dots, O_n \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2$ とする。 \mathcal{O}_1 は (O2) を満たしているので $O_1 \cap \dots \cap O_n \in \mathcal{O}_1$ 。 \mathcal{O}_2 は (O2) を満たしているので $O_1 \cap \dots \cap O_n \in \mathcal{O}_2$ 。
従って、

$$O_1 \cap \dots \cap O_n \in \mathcal{O}_1 \cap \mathcal{O}_2 .$$

問題 10 . (1) はい。

A が X の閉集合

$\Leftrightarrow (X - A)$ が X の開集合

$\Rightarrow (X - A) \cap Y$ が Y の開集合

$\Leftrightarrow A \cap Y = Y - (X - A) \cap Y$ が Y の閉集合。

(2) いいえ。 $X = \mathbf{R}$, $Y = B = [0, 1)$ とおくと、 B は Y の開集合であるが X の開集合ではない。